

震災復興版Gyro(ジャイロ)

がんばろう福島

～ Voices from Fukushima ～



当協会HPをご覧ください。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が起きてから1,000日が過ぎました。現在もなお避難生活が続き、苦しく不安な日々を送っている被災者の方々にお見舞い申し上げます。

(公財)福島県国際交流協会では、震災直後より当協会広報紙「ジャイロ」の震災復興版として「がんばろう福島」を発行し、福島県の現状や外国出身県民の声、復興に向けた活動等を紹介しています。

※本紙の翻訳版は、当協会HPからダウンロードできます。



福島風景

福島の復興を考える「被災地スタディツアー」

いわき市のいわき復興支援・観光案内所では、昨年より津波被害がひどかった地域の現在の様子を視察する「被災地スタディツアー」を開催しています。11月23日(祝・土)は県内外から24名が参加し、久之浜地区や豊間・薄磯地区などをまわりました。

最初に訪れた久之浜地区には、震災により被災した久之浜商店街の方々が久之浜第一小学校の敷地内にオープンさせた仮設店舗「浜風商店街」があり、参加者の方々は商店街の方たちと話したり、掲示されている震災関連資料や震災直後の久之浜地区の写真に見入っていました。その後、^{はつたち}波立海岸付近へ移動し、語り部さんより震災直後の悲惨さを風化させないための課題につ

いての話を聞きました。

午後に訪れた豊間・薄磯地区は、いわき市で最も津波被害がひどかった地域です。現在も立入禁止区域が多く、かつて観光地としてもにぎわっていた薄磯海水浴場も閑散としていました。

ツアー参加者の方々は、メディアでは得られない被災地の現状を知り、また語り部さんからの震災体験や教訓を聞いて、福島の復興や防災、減災について改めて考えていました。(いわき市 2013.11.23 撮影)



久之浜・波立海岸付近を視察



現在9店舗が営業している浜風商店街

復興を支える情報通信技術 (ICT)

情報通信技術 (ICT) を活用した福島県の復興や地域の活性化を考える「ふくしま復興情報化フェア2013」が、11月21日(木)、福島市のコラッセふくしまで開催されました。

出展企業による復興支援の取り組みの紹介や、ジャーナリストの津田大介さんの講演、復興支援ITボランティアの武井茉莉花さんによる岩手県陸前高田市市長洞元気村でのボランティア活動のプレゼンテーションなどがありました。今後、復興に向けたより一層のICTの活用が期待されます。(福島市 2013.11.21 撮影)



津田大介さんによる情報発信の在り方についての講演



飯舘村臼石地区の除染作業の様子

本格除染が進む「除染特別地域」

東京電力福島第一原発から半径20km以内の警戒区域と、計画的避難区域に指定された11市町村は「除染特別地域」となり、国が除染計画を策定し除染を進めています。該当地域である相馬郡飯舘村では、今年の秋から住宅建物や宅地、農地、舗装道路などの本格除染が行われており、一日も早い復旧が待たれています。

(飯舘村 2013.12.3 撮影)



福島に暮らす人々の声

寺田 パニーダさん（郡山市在住 タイ出身女性）

東日本大震災による被害で、営業していたタイ料理レストランを閉店せざるをえなくなり、昨年秋ようやく再オープンすることができました。現在は日本人だけでなく、同郷の方たちも私のお店を訪れてくれます。近隣に住む同郷の友人たちとは近況報告をしあい、時には相談にのることもあります。震災後、自然災害に対する恐怖心が消えない人が多くいます。私は長く日本で暮らしているので、困っている人には力になりたいと思っています。

なかなか休みがなく毎日忙しいですが、たまにゆっくりできるときは磐梯熱海の温泉へ行きリラックスしています。福島県に住んでいてよかったと思えるひとときです。（2013. 11. 15 取材）

大倉 リンさん（福島市在住 フィリピン出身女性）

東日本大震災後、福島市内在住のフィリピン人のグループ（HAWAK KAMAY FUKUSHIMA）が作られ、私も仲間に加わり被災者支援活動に取り組んでいます。先月 8 日に発生した母国の甚大な台風被害は、震災当時を思い出し、惨状に胸がつぶれる思いになりました。グループの仲間みんなも同じ思いで、母国のためにできることをしなければと連絡を取り合い、衣類や非常食などの支援物資を集め、また 11 月 30 日（土）と 12 月 1 日（日）には JR 福島駅東口広場で街頭募金活動を実施しました。協力的な方や励ましの言葉をかけてくださる方が多く、ありがたかったです。些細なことでも、たくさんの人が協力し合うことで大きな力になるということに再度気づかされました。（2013. 12. 4 取材）

関 晟彦さん（福島市在住 中国出身男性）

2011 年春に福島大学へ進学することになっていましたが、東日本大震災の発生で 1 年間中国へ帰国したため、入学時期が 1 年遅れました。しかし、その待機中に原発や放射能について正しい知識を持つことができたので、今は不安になることなく心穏やかに学生生活を送っています。今年度は福島大学留学生会の会長になり、学園祭や福島市の国際交流イベントに参加しました。また、福島県国際交流協会の国際理解出張講座の外国人ゲストとして、小学生や中学生に中国の文化や習慣について紹介する機会もありました。子どもたちが関心を持って聞いてくれたので嬉しかったです。あと 2 年間学生生活が続きますが、福島で過ごすからこそ経験できることに、意欲的に参加したいと思っています。（2013. 12. 7 取材）

福島県内各地の環境放射能測定値（暫定値）（福島県 HP から抜粋）



福島県 HP では、県内各地の環境放射能測定値（暫定値）を日本語、英語、中国語で、県国際交流協会 HP では、それらに加え、タガログ語、韓国語、ポルトガル語で随時更新しています。

<http://www.worldvillage.org/>

単位：マイクロシーベルト/時間

日 時	福島市	郡山市	白河市	会津若松市	南会津町	南相馬市	いわき市
（平常値）	0.04	0.04-0.06	0.04-0.05	0.04-0.05	0.02-0.04	0.05	0.05-0.06
2013. 12. 10 9:00	0.30	0.16	0.11	0.07	0.05	0.14	0.08
測定装置	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP
福島第一原発からの方向及び距離	北西 約 63km	西 約 58km	西南西 約 81km	西 約 98km	西南西 約 115km	北 約 24km	南南西 約 43km

※測定地点は、福島市は県北保健福祉事務所南側広場、郡山市は郡山合同庁舎東側駐車場、その他の市町は各合同庁舎の駐車場です。

※平常値は、県内の平成 21 年度放射線レベル調査結果です。



お知らせ

○外国出身者のための生活相談窓口のご案内

当協会では、外国出身の方々のために外国語で生活相談に応じています。

- 英語・中国語・日本語 毎週火曜日～土曜日 9:00～17:00
 - 韓国語・タガログ語・ポルトガル語 水曜日 13:00～17:00
- ※第 4・5 水曜日は事前予約が必要です。

電話：024-524-1316（専用） E-mail：ask@worldvillage.org（専用）

発行者

（公財）福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町 2-1

☎024-524-1315 FAX 024-521-8308

E-mail info@worldvillage.org

URL <http://www.worldvillage.org>